

様式第3号(第9条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和6(2024)年度第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開催日時	令和6(2024)年6月12日(水) 午後2時から午後4時30分まで		
開催場所	みよし市役所 6階 602, 602会議室		
出席者	<p>委員長：大村 恵 委員：渡辺 桜 大地由美子 鈴木 政之 丹羽 浩介 黒田 和秀 林 晴子 山田 竜治 岡田 文子 山岡 直子 富樫佐智子 鈴木 睦子 鈴木 康之 平山 啓子 清水 素子</p> <p>事務局：増岡教育長 富田教育部長 新美教育部参事 岡田教育部次長兼学校教育課長 鈴木教育部副参事兼学校教育課主幹 本松こども未来部保育課長 林スポーツ課長 橋本資料館長 林給食センター所長 伊豆原生涯学習推進課副主幹 酒井学校教育課主幹 廣川学校教育課主幹 多治見学校教育課主幹 西世古学校教育課主幹 金丸学校教育課副主幹 山内学校教育課地域連携担当 (計31名)</p>		
次回開催予定日	令和6(2024)年7月24日		
問合せ先	みよし市教育委員会学校教育課 電話：0561-32-8026 ファックス：0561-34-4379 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> 議事録全文 議事録要約 	要約した理由	
審議経過			
鈴木教育部副参事兼学校教育課主幹	<p>本日は、ご多用の中、本推進委員会の方にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。会議を始める前に一つお願いがあります。本日のこの会については、会議録作成支援システムというものを使って、行わせていただく関係上で発言される際には、マイクをさせていただきますので、ご承知おきください。それでは定刻になりましたので、ただいまから第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会を始めさせていただきます。初めに、礼の交換をいたしますので、皆様、ご起立ください。一堂礼 お願いいたします。ご着席ください。なお、本日ですが、みよし市小中学校長会代表であります、都築克章様からは、ご欠席の連絡をいただいておりますので、ご承知おきください。</p>		

大村委員長	大村先生、一言御挨拶をお願いいたします。 大村委員長 挨拶
大村委員長	それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思ます。要項に沿っていきますと、みよし市教育振興基本計画の概略ということになると思ます。 それでは事務局からご説明をお願いいたします。
事務局・多治見	<p>みよし市教育委員会学校教育課指導主事の大治見です。よろしくお願ひします。</p> <p>まずは、3番みよし市教育振興基本計画の概略について説明いたします。本市では、平成15年に三好町教育基本計画を策定し、教育環境の整備と充実を図ってきました。そして、平成26年、27年には、2か年をかけて、新たなみよし市教育振興基本計画、みよし教育プランを策定し、さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、時代の変化に対応した教育のあり方を見直し、令和3年3月に、みよし市教育振興基本計画の改訂版を策定いたしました。本計画は、教育委員会が所管する学校教育及び社会教育の分野を中心に、すべての市民の教育に関わる計画となっています。計画期間が平成28年度から令和7年度の10年間と示されておりますが、この期間の中間見直しとして、令和2年度改訂いたしました。計画の基本理念は、学ぶ楽しさで、人と人をつなぐことで、目指す人間像は生涯にわたってみずからを磨き続け、仲間とともに、ふるさとみよし市を築き、よりよい時代をつくり出す人です。</p> <p>本委員会の役割といたしましては、みよし市教育振興基本計画改訂版が着実に実行されるよう、プランの進捗状況を、本日ここにいらっしゃる全委員で確認し、より改善していくことです。本プランのPDCAサイクル、計画、実行、評価、改善という4段階の活動を繰り返し行うことで、継続的に改善していくことを目指しています。計画推進の流れといたしましては、要項の3ページになります。本年度と令和7年度の2年間に渡って、新計画の策定に向けて協議を行っていくため、計4回推進委員会を予定しています。今年度は、再度、市民にアンケートを実施しまして、その分析を行いながら、新たな計画の内容もこの業務を作っていくと考えています。</p> <p>来年の7年度には、内容の最終確認を行いながら、体裁を整え、最後パブリックコメントを経て、新計画の完成を目指していく流れになります。そして、8年度以降は新たな計画を推進していくことになります。</p> <p>プランの全体像について、先ほど申し上げましたが、基本理念として「学ぶ楽しさで人と人をつなぐ」ということがあります。目指す人間像としましては、そこにある通り、「生涯にわたって」という部分と、「ふるさとみよし」という部分が大きなキーワードになってくるかと思っています。そのために、ここにある三つの柱が作られているというような流れでプランが立てられている状況です。こどもをみんなで大切に育てるという中には、知・徳・体のバランスのとれたこどもを一人一人の個性を大切にしながら、家庭、地域、学校が手</p>

<p>大村委員長</p>	<p>を取り合い、育てていけるように、令和2年度の間見直しの際には、委員の皆様にご協賛していただいております。みよしプランのところにある24、25ページを参照していただきたいと思いますが、こちらのページには、みんなで育てるみよしっ子ということで、分かりやすいように図を入れてまとめております。この中でどんな働きかけができるかというところで、キーワードの二つの教育があります。一つ目が「共育（ともいく）」と呼ばせていただいておりますが、こちらの説明をさせていただきます。共育とは、家庭、学校、地域がともにこどもを育てていくことを通して、こどもたちだけではなく、家庭も地域の学校も共に育つことを意味しています。二つ目の「協育（きょういく）」については、先ほど申し上げた通り、家庭、地域、学校が協力してこどもを育てていくことを意味しております。以上が概略となります。</p> <p>ただ今の説明について、何か質問や確認したいことはありますか。</p> <p>質問なし</p>
<p>大村委員長</p> <p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p>	<p>それでは続きまして、協議事項に入りたいと思います。要項でいくと、4ページからになります。</p> <p>最初に、重点施策について、20の作戦プラスワンの、作戦10までで一区切りですかね。まずご説明をしていただいて、そのあと、ご質問をいただきたいと思います。</p> <p>そのあと11から20までをまたご説明していただいて、ご質問を皆さんからいただくという形で、まずは、現在の計画の重点施策について、共通理解を作ろうということで進めていきたいと思っております。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、学校教育課からお願いいたします。</p> <p>失礼いたします。学校教育課です。</p> <p>事前にお配りしております資料1と右肩にあります。こちらの資料に沿って説明をさせていただきたいと思っておりますのでご準備をお願いいたします。では、この後、この資料に沿って作戦の説明させていただきます。では、1ページをめくってください。作戦PlusOneの重点施策「みんなで育てるみよしっ子」の充実と周知啓発について説明します。本施策は、「みんなで育てるみよしっ子」の理念を家庭・地域・学校で共有し、それぞれの役割を果たしながら、子育てに関わっていくことができるようにするための施策です。みよし市教育振興基本計画の本冊子P24、25を御覧ください。「みんなで育てるみよしっ子」の内容がまとめてあります。この内容をチラシにまとめ、令和5年度は市内小学校の入学説明会で年長児の保護者対象に配布し周知を図りました。今年度の初めには、市や小中学校のホームページに掲載したり、市内の幼稚園・保育園に通う園児の保護者へ、市のHPにリンクする二次元バーコードを載せた案内文書を配布したりして、多くの保護者に周知できるよう取り組んでいるところです。以上です。</p>

<p>本松こども未来部 保育課長</p>	<p>保育課です。</p> <p>作戦1「安心して子育てができる環境を整えます」。子育ての拠点施設としてある子育て総合支援センターが、令和5年度から運営を民間事業者に委託することにより、安定した相談担当職員の配置ができ、相談を受ける体制づくりの充実と相談員のスキル向上とともに、未就学児の保護者の利用ニーズに対応できる体制の充実を図っております。相談したいときに、常にコンシェルジュがいるため、気軽に相談ができる場所、人がいるという、支援の充実を強化できております。</p> <p>今の課題としては、家庭の中に取り残されている親子や孤立感を高めている親子に対して、支援の充実を最重要課題として、保育課だけにとどまらず、こども相談課等の情報の共有や連携を図りながら、こども未来部全体としての支援を行っていきます。</p>
<p>西世古学校教育課主幹</p>	<p>学校教育課です。作戦2重点施策「放課後児童クラブによる子育て支援の拡充」について説明します。</p> <p>本施策については、これまで、働きながら子育てをする市民を応援するために、放課後児童クラブにおいて、対象年齢の拡大や受け入れ時間の延長を行ってきました。令和5年度には、令和7年度で検討予定でありました、放課後こども教室(通称わくわく体験ルーム)を試行的にはありますが北部、天王小学校で実施することができ、タクシー移送と併せて待機児童の解消を図り、安心して子育てができる環境を整えてきました。そのような対策を行ってきましたが、待機児童が発生しているため、その対策をより一層行う必要があると考えており、今年度から放課後こども教室を全小学校でスタートさせ、教室やタクシー移送を活用しながら待機児童の解消を図る方法を検討してまいります。</p>
<p>西世古学校教育課主幹</p>	<p>続きまして、作戦3重点施策「家庭の教育力向上のための啓発活動の推進」について説明します。本施策については、家庭教育だより「はぐくみ」を広報みよしに2か月に1回掲載しておりますが、紙媒体ではない発信方法の検討をしてまいりました。令和6年4月からは家庭教育だより「はぐくみ」を電子化して「みよびよ」に登録して発信しています。今後はICTを活用した情報発信の方法の検討をしてまいります。</p>
<p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p>	<p>続きまして、作戦4重点施策「困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実」について説明します。本施策については、相談員等関係者の連携協議会を開催し、多岐にわたる相談に対応できるようしたり、相談機関の周知を図ったりし、施策を進めてまいりました。令和5年度は、相談時間数を増やすことで、相談員等関係者、学校、関係機関との連携の時間を確保が可能となり、組織的に支援を行うことができました。</p> <p>学校関係者と専門相談員がオンラインで会議をすることで情報共有や相談の機会が増やし、連携を強化することができました。今後も、相談員関係者、学校、関係機関(行政、福祉等)、地域の方と連携し、部を越えた0～18歳までの児童を抱える親の相談機能の一層の強化を図る方法を検討してまい</p>

鈴木教育部副参事
兼学校教育課主幹

ります。

続きまして、作戦5の重点施策「主体的・対話的で深い学びを実現するための、教員の指導力向上への取組」について説明します。本施策については、教科領域等指導訪問の訪問計画を見直し、学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善、各教科の特性に合わせた「見方・考え方」の育成に向けて、各校の現職教育の充実につなげてまいりました。本年度以降もICTの活用をテーマとした研修の実施や教職員ひとりひとりの専門性を高め、主体的に取り組むことができる教職員研修計画を立案してまいります。

続いて、作戦6-1の重点施策「授業におけるICT活用の推進」について説明します。本施策については、令和2年度に小中学生に配付した一人一台タブレットや大型提示装置の活用を推進していくための施策です。令和5年度は、これまでの集大成として、これまで蓄積した数多くのICTを活用した授業の事例集を段階表にまとめ、学習用タブレットの活用推進を図りました。今後は、教育研究員がまとめた年間指導計画や実践事例等を市内全教員がいつでも活用できる環境を整えながら、自ら考えて、判断することができるこどもたちの育成のために、引き続きICTを活用した授業改善に努めてまいります。

続いて、作戦6-2の「新たな学びを支えるICT教育環境整備の推進」について説明します。令和5年度は、各校から推薦された専門委員からなる専門部会を年に数回実施し、授業支援ソフトやCP室、校務支援システム等、次回更新に向けて学校現場の実情に合わせた環境を検討し決定してまいりました。本年度は、ネットワーク環境の状況把握と改善に努めてまいります。

続いて、作戦7の重点施策「ALT・小学校外国語対応非常勤講師による外国語指導の充実」について説明します。現在、小学校で行うほとんどの授業で担任もしくは外国語専科教員がALTと協力して外国語・外国語活動の授業を実施しています。中学校でも、年間35時間はALTとのティームティーチングによる授業を実施しています。令和5年度は、小学生のイングリッシュキャンプを対面で実施し対象学年を小学4年生にまで拡大しました。

今後は、オンライン等で海外との意見交流の機会をもち、多くのこどもたちが、国際感覚を身に付けられる機会の充実に努めていきたいと考えております。

続きまして作戦8の重点施策「道徳教育の研究推進」について説明します。みよし市の小中学校ではどの学校でも「特別の教科 道徳」の授業研究を盛んに行ったり、教育活動全体を通して道徳教育を推進したりしてきました。また、市教委主催による道徳推進教師研修会を実施し、発達段階に応じたこどもの姿の見取り方と評価についての検討を行いました。

本年度は、地域とのかかわりを通して、道徳性を養うことを意識できるよう、年間計画等の見直しを図っていきます。

続いて作戦9の重点施策「みよし市体力向上計画の推進」について説明します。令和5年度も、「いいじゃんスポーツチャレンジ in みよし」の8の字跳びの通信制大会を開催し、市内全小中学校が参加して行い、運動に親しむきっかけをつくることができました。今後も、「いいじゃんスポーツチャレンジ in みよし」の種目を増やすなど、充実を図っていきます。また、今後は、小中学校の体育の授業とスポーツ課主催の大会やわくわくたいけんルームの活動等との連携を図りながら、体力の向上につながる方法を検討してまいります。

続きまして作戦10の重点施策「個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実」について説明します。これまで「個別の教育支援計画・指導計画」等を各学校で作成、切れ目のない充実した支援ができるよう施策を進めてきました。令和5年度は、小学校へ入る前の支援を充実させるため、外国籍の未就学の子ども達に対して、年間15回のプレスクールを実施しました。今年度以降も、プレスクールを継続するとともに、教員や社会の資質向上とともに、特別に支援が必要な児童生徒の中学校区内での交流機会の推進を図る方法を検討していきます。以上説明といたします。

大村委員長

ありがとうございました。

それでは、今ご説明いただきました作戦10までについて、ご質問等いただきたいですが、いかがでしょうか。

黒田委員

それぞれの成果指標がちょっと微妙だなと思うところがありました。例えば作戦PlusOneの一番初めのところ、「みんなで育てるみよっ子を知っている割合」を指標としているのですが、知っていれば本当に共育、協育とかに関わってくるのかなというところは疑問に思います。保護者の割合がすごく低いのも、この聞き方によっては、共育が目指しているところの下校の見守りとかゲストティーチャーで参加している方はたくさんみえると思うのですが、そういう方々がこうやって実践して子どもたちを育てようとしていることと、この全体的な像を知っているということに乖離があるのかなという感じがします。この図は知らないけど、私は自分の立場で子どもを育てようとしていますよというようなことで参加されているという感じがするのでそれぞれ全部のところに参加していなくても、1個でも参加していれば、それは、PlusOneの目指すところには入ってくるのではないかと思います。それ以外の指標についても、例えば作戦2のところも、待機児童をゼロにしますとなっているのですが、指標は利用の数になっていて、必要としている人の数が変わっているのは当然、毎年変わってくると思うのですが、待機児童をゼロにするというところが絡んできているのかなというところなど、ほかにもたくさんあるのですが、指標のところはずれているのではないかとと思うところがたくさんありましたので、そのあ

	<p>たりはどのように考えればいいのかということをおっしゃっていました。以上です。</p> <p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p> <p>お願いします。どうもありがとうございました。 先ほどのPlusOneの成果指標のところでは話題にしていきたいと思いますが、確かに知っていればOKなのかということもあるかと思っております。ここについては、まずは、皆さんに周知を図って、みよし市がこういった形で進めていることをもっとPRする必要があるかなど。それを知ることで、今ご自身がそれぞれの立場で取り組まれていることと結びつけ、価値づけをしていくことの両面必要かなと思っております。 成果指標に関しましては、こちらにだけではなくて、他のことについても、見直しが必要なものが多いなというふうにもこちらで今考えているところでして、皆様からのご意見もいただきながらこういった施策もそうですが成果指標についても、ご意見をいただけると大変ありがたいですのでよろしくをお願いします。 以上です。</p> <p>大村委員長</p> <p>私から一つお聞きしたいのは、作戦2のことで、令和5年で、今の成果指標で、令和4年に比べて減っていますが、待機児童は出ているということだとすると、これはどういうふうになんか状況になつてくるのかというのを教えていただきたいと思ったのですがいかがでしょうか。</p> <p>西世古学校教育課主幹</p> <p>調べさせていただいてもよろしいでしょうか。後でお答えいたします。</p> <p>大村委員長</p> <p>おそらく学区による偏在、ニーズの偏在があるのかなという事は想像できるのですが、その対策としてタクシーで運ぶということをやっているというふうには理解はしていましたが、そこがうまくマッチングができてないのかどうかというところでお聞きしたかったです。それはまた後でお願いいたします。 実はもう1点ですね。この作戦には、放課後児童クラブということなのですけども、今全国的に少し話題になっているのは、朝ですよ。共働き家庭で子どもが学校に登校する前に、家を出なくては行けないと。そうすると、朝の時間に、学校が早くから開けられているのか、それとも子どもだけで遊んでいる状況なのか。みよし市ではどういう状況なのか少しお聞きしたかったのですが、いかがでしょうか。</p> <p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p> <p>朝の受け入れに対して、現状では特にそういった特別な対応ですとか、策ということは行っていない状況です。 以上です。</p> <p>大村委員長</p> <p>保護者からそういう要望とかは出ていないでしょうか。</p> <p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p> <p>実数としてはしっかり把握はしてないですけども、私自身がこちらの立場におりまして個別でそういった相談を受けた</p>
--	--

	<p>ことはございます。そのケースについては個別の特別支援といった対応が必要な子ということもあって受け入れの時間ですとかを学校と調整をして、融通利かせていただいたということはあります。以上です。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。これはまた今後の議論していただくテーマにもなるかと思えます。よろしく願いいたします。</p> <p>その他、皆さんからいかがでしょうか。</p>
<p>黒田委員</p>	<p>この令和8年の新計画の策定のところの赤字で書かれている内容はもう決定事項なのか、それともまだこれから考えられる余地があるのか、そこを教えて欲しいなと思えます。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>こちらの赤字のところについては今まだ現時点でのたたき台となるものですので、これからいろいろとご意見もいただきながら、よりよい形に見直しをしていきたいというふうに考えております。以上です。</p>
<p>黒田委員</p>	<p>すいません。例えば作戦7のところは授業においてオンラインとか海外の意見交流を日常化すると書かれていて、例えばこれが、コロンバスと交流を結んでいるのでそこオンラインで授業をやるとか、それは時差の関係でなかなか難しいと思いますが、そういうことを目標にしているのであれば、現場の我々が判断していくことは難しいところもありますので、例えば英語の授業をやっている先生方が実行、実践できるように話ができるといいと思うので、現場にも、ぜひ説明していただけるとありがたいなと思えました。以上です。</p>
<p>増岡教育長</p>	<p>今、作戦8の話が出ましたが、今の教育プランにも20の作戦PlusOneが次回本当に重点施策として取り上げられるかどうかも含めて、0から作っていくので、もしそこに重点施策に取り上げられたら、こんな方向もあるかなということで本日、案が出ているだけで、もっとこんなことを目指したいということがあったらどんどん意見を出していただくための呼び水っていうかですね、そのつもりで書いているので、後半、またこちらをご覧になって、ご意見をたくさんいただくと嬉しいです。三本の柱ももしかしたら5本になるかもしれないし、2本になるかもしれないし、1本になるかもしれないし、目指すところについても、今から作成していくものなので、令和8年度以降のことはまた後半でご意見いただくと嬉しいです。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>お願いします。作戦8のところの指標に関係したことなのですが、人の役に立つ人間になりたいという児童生徒が、年々減ってきているという部分で、これをどのようにとらえたらいいのかなと、やはり、こどもの心を育てることは難しいことであって、指標としても、うまく割合が上がっていないことがあります。これをどのようにとらえてみえるのか教えていただきたいと思えます。</p>

<p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p>	<p>この人の役に立つ人間になりたいというところは、自己肯定感ですとか、有用感とか、今すごくも求められており、大切にされているところでもありますので、何とか子どもたちが実感できるような方向で進めていきたいなど。そのためにも、またこの後話題にもなってくると思いますが、体験の場ですとか、いろんなものを意図的に位置付けていくことによって自己有用感ですとか肯定感というのを高められるようにしていきたいなど考えているところです。以上です。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>作戦8の人の役に立つ人間になりたいという割合が減っているというのは、これはどう、子どもたちの思いといいますか、それがどうなっているのかというのは、確かに気になるところで、それぞれの学校であるとか家庭からぜひ声を上げていただけるとよいと思いますけども、一般的に言われていることは、コロナ禍の影響が一つあるのではないかという話がございます。特に社会的にといいますか、いろんな人との出会いとか触れ合いが減ってきている中で、そういう人たちのためにということがなかなかイメージしにくくなったとか、あるいはそういった触れ合いの中で、今言われました自己肯定感も上がっていくけれども、それがないと、自分に何ができるんだろうかというふうに思ってしまうと、人の役に立つことなんて自分なんかできるんだろうかという、そういった思考、自己肯定感の低さが影響しているかもしれないですね。ですから、この辺りを子どもたちの意識がなぜこうなっているのかというのは丁寧に研究もしていただかないといけないですが、また皆さんからのご意見をいただきたいと思えます。</p>
<p>黒田委員</p>	<p>この作戦8のところ、道徳教育の推進になっていて、道徳教育を進めていくと、人の役に立つ人間が育つかというところではなくて、豊かな道徳性を育むものであって、自分のことで一生懸命やることであったり、自然を大事にすることであったり、能力を育むとなれば、すごく幅が広いと思うのですが、その指標が、人の役に立つと思う人間を育てることというのはすごくずれているなというのは自分が感じていて、もちろん割合が下がっていることは問題かなと思うのですが、道徳教育の推進と深めていこうとするところが、この指標で測れるかというところは疑問だなと思っています。以上です。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>ありがとうございます。道徳教育は、今おっしゃる通り、多面的な目標があるし、あるいは一人一人、そうした思いと違うということを考えて、成果指標がこの一つの軸だけではないのかというそういったご意見だったかと思えます。 先ほど新計画に向けてはまた別途議論をするということですので、またその時にご意見いただければと思います。ありがとうございます。他はいかがでしょう。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>作戦4のところでお話をさせていただきます。令和6年度の行動予定などを見ると、ケース会議という言葉が2回出てき</p>

	<p>て、子育てに困っている家庭を支えるうえではとても重要なことだと思うのですが、ケース会議を行うことで、その会議に参加する教員、そして会議で決まったことに対応する教員など、担当する先生たちは、かなり疲れ果てております。本校のように、一家庭、二家庭では済まない学校も市内にはあると思いますので、担当の先生たちの家庭を壊さないためにも、もう少し教員の負担を減らしていただくように、ご検討いただけるとありがたいです。以上です。</p>
<p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p>	<p>学校教育課です。お願いします。確かにケース会議という、いろいろ会議をもつということ自体、今なかなか時間もかかることですし、負担に繋がることはあるかなと思います。ただ、いろいろな方が、一つのケースを担当の先生1人に抱えこませてしまうのではなくて、チームとして学校だけではなくて地域の方ですとか、いろいろ専門機関の方と共有して、担任の先生、あるいは学校の方の負担を少しでも軽くするということと変かもしれないですけども、連携しながら、効率よくといただけますか、そういった形で、家庭やお子さんを支えていけるといいかなと思います。まだ、この形についても進み始めたところなのでまだまだ課題が多いなと感じているところですので、こういったこともまたご意見をいただきながらより効率的で効果的なケース会議の設定の仕方、その活用の仕方を考え、検討して進めていきたいと考えております。ありがとうございました。以上です。</p>
<p>清水委員</p>	<p>いじめや不登校について、いろいろお話を聞いていると、子どもだけではなくて、家庭とか親が原因になっているということが結構ありまして。親同士の繋がりが重要だと思いました。子育て総合支援センターやカリヨンハウスの下にある施設については、そこで知り合って、そのままずっと関係が続いていて、何かあった時でも話ができるというような関係をつくれるいい場所だと思うのですが、その利用状況はどういうふうになっているのかなと思っています。カリヨンハウスが近いのでたまに通るのですが、あんまり人が集まっているのを見かけないのでお聞きしたいです。</p>
<p>本松子ども未来部 保育課長</p>	<p>保育課の方からちょっとお話をさせていただきます。カリヨンハウスふれあい広場の方ですけども、令和5年度に関しては、延べ利用者数になりますが、大体4万人ぐらいです。コロナ禍の時は、3万人ぐらいだったので、今は1万人ぐらいは増えてきたかなと思いますが、それ以前は、もうちょっと利用者があったものですから、まだそこまでは戻ってはないかなとは思っているのですが、リピーターの方とか、よくご利用される方は、そこで支援員の方といろんなお話ができたりだとか、お母さんたち同士もそこで集まることによって、お友達ができたりだとか、これから先になると就園に向けての話をそこでされたりだとか、そういったふうで利用者の方が増えている状況です。、本当にまだ完全にはコロナ禍前の人数には戻ってないのですが、少しずつ利用者も増えてきているかなと感じております。</p>

<p>鈴木睦子委員</p> <p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p>	<p>作戦5についてお願いします。1人1台の端末を活用した授業をさらに推進すると思いますが、低学年の1年生などは、初めて鉛筆を持ってひらがなを練習します。それを端末で、何かの時に写真をぱっととって、その授業の写真を撮って帰るといことも聞いたこともありますので、なるべく低学年の端末利用については、気をつけて欲しいと思います。本当に鉛筆の筆圧が弱くて書けない。中学校になると、ほとんどが鉛筆でやっていると思います。端末利用ということ、学年によってはよく考えて推進して欲しいと思います。以上です。</p> <p>計画の通りで、タブレットの活用というのはこれから求められる大事なことではあるのですが、一方でやはり鉛筆で書くといったことについても大事なものであるというふうにとらえています。段階を置いて、どんな場面でどんな活用してどんな力を身に付けさせたいかというのも、今系統的に段階を踏んだ指導計画を作っているところですので、今後またさらに見直しが必要などころだというふうには感じております。ありがとうございます。以上です。</p>
<p>大村委員長</p> <p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p> <p>西世古学校教育課主幹</p> <p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p> <p>伊豆原生涯学習推進課 副主幹</p>	<p>それでは、ご説明の方に戻りたいと思います。 作戦11以降の担当課からのご説明をお願いします。</p> <p>作戦11の重点施策「小中学校における学級指導体制の充実」について説明します。現在みよし市では、国や県の施策に加え、市独自の施策として小中学校の全学年で35人学級を実施しています。また、実施可能な教科を検討し、小学校高学年における教科担任制を推進しました。今後は、小学校の教科担任制だけでなく、学年担任制、あるいは学級解体等、子どもにとって何がよいシステムであるかを検証し、よりよい少人数型学級の実施に向けて検討を続けてまいります。</p> <p>作戦12の重点施策「大規模改修による学校施設の整備」について説明します。本施策については、南中学校大規模改修（2期）工事を令和5、6年度で実施し、3期工事についても令和7年度で実施する予定にしております。大規模改修の他にも、令和4年度から6年度にかけて体育館に空調機を設置している。また、令和5年度に体育館のLED化が終了し、令和7、8年度に校舎のLED化が終了する予定です。今後は、南部小学校大規模改修、中部小学校大規模改修を予定しておりますが、財政面を含めてどのように実施するのか検討してまいります。</p> <p>作戦13の重点施策「みよし市版コミュニティスクール」の設置について説明します。令和5年度は、コミュニティスクールの設置を、三好中・北中・南中・三好丘中・三好丘小・緑丘小の6校に拡大しました。令和7年度までには、市内全小中学校での設置をめざし、地域学校協働活動の充実を図ってまいります。</p> <p>作戦14、生涯学習推進課です。お願いいたします。 サンライブでいろいろなことが学べるようになりますという</p>

ことで重点施策サンライブの生涯学習拠点化の推進です。平成28年に開館しました、図書館学習交流プラザサンライブで、生涯学習講座を開催して参りました。令和5年度から、北部地域のきたよしとおかよし地区にありますおかよし交流センターにおいても、生涯学習講座を開催し、生涯学習受講の機会を増やしていきます。令和6年度はおかよし交流センターの講座受講回数を増やして開催していきます。令和8年度には、現在、旧明越会館の建て替えを含めたみなよし地域に建設中の(仮称)みなよし交流センターでも、生涯学習講座を開催していく予定として、検討を図ってきまして受講機会の増加を図ってまいります。

続きまして作戦15、市民が発信する生涯学習活動を応援します。重点施策は自主的サークルによる生涯学習の推進です。生涯学習活動団体へ登録をしてもらうことにより、図書館学習交流プラザ、サンライブにおける施設予約における優先予約や学習成果を発表できる場としての生涯学習発表会への出演についてご案内をしています。生涯学習活動団体の増加を図るために、今後もみよし市へ広報みよし等で周知を図って参ります。今後としましては、各生涯学習団体の日頃の練習の成果を発表する場の機会として、生涯学習発表会を開催していますが、来場者収入の伸び悩みがあるところもあります。多くの人に鑑賞してもらえるように発表方法や周知方法の見直しを検討して参ります。以上です。

林スポーツ課長

スポーツ課長の林です。作戦16であります。全国的にはこどもの体力の低下、スポーツを行う子と行わない子の二極化の傾向が見られます。本市のアンケート調査では、運動習慣のほとんどない成人は50%以上おります。市民が将来にわたり健康な暮らしを送るために生涯スポーツ推進の必要性が今高まっております。重点施策は、総合型地域スポーツクラブの育成で、現在、市内に三つの総合型地域スポーツクラブが活動しています。総合型地域スポーツクラブは、地域の人の運営により、その地域の住民に対して運動スポーツを行う機会を提供しています。市は引き続きクラブ活動の支援を行って参ります。成果指標の総合型地域スポーツクラブで活動した人の人数につきましては、令和5年度は4万505人で、前年度より5000人弱ですが、増加しております。令和5年度は、休日の部活動地域移行について、総合型地域スポーツクラブの連携強化を図って参りました。今後につきましては、令和8年度の休日の中学校部活動の地域移行に向けて、子どもたちが継続してスポーツが活動を行えるよう環境を整え、整えて参ります。以上です。

橋本歴史民俗資料館長

歴史民俗資料館長の橋本です。

続きまして作戦17「みよしの歴史や文化を広く市民に発信します」です。重点施策の歴史民俗資料館展示の充実についてです。歴史民俗資料館ではみよしが誇る文化財である猿投古窯を中心に、興味の歴史や文化、民族、自然など、様々なテーマを設けて、魅力的かつ、充実した企画展、特別展を季節ごとに開催しております。また、市の指定文化財である石

	<p>川家住宅などの施設と連携したイベントなども開催しながら、文化財を見たり触れたりする機会を提供しています。そのほかにも猿投古窯に関する小中学校への出張授業や体験講座を通じて、こどもや親子を中心に、歴史や文化に触れる機会を設けております。今後については、猿投古窯だけではなく、市内各所に所在する文化財について、より多くの市民の皆さんに知ってもらい、郷土に対する愛着をもってもらえるような取組を進めていきたいと考えております。その拠点となっております歴史民俗資料館については、開館から42年が経過しており、老朽化が進む施設の今後について考えていくことも大きな課題となっております。以上です。</p>
<p>伊豆原生涯学習推進課 副主幹</p>	<p>中央図書館です。作戦18、読書好きな市民が増えるような環境づくりをします。重点施策「サンライブでの充実した図書館サービスの推進」です。平成28年に中央図書館を併設しました、図書館学習交流プラザサンライブを開館し、図書館の書棚がいっぱいになるまで、紙の図書の購入を続けて参りました。現在は蔵書数約32万冊で、書棚がいっぱいになって参りました。令和3年度からは電子書籍サービスを導入しまして、令和5年度末で2103冊の蔵書となっております。令和6年度には、スマートフォンなどを使用した図書の貸し出しを秋ごろに開始する予定です。毎年読書啓発事業として実施してきました読書感想文コンクール展は令和6年度から本のポップ展に変えて、中央図書館で開催し、読書意欲の向上を図って参ります。令和8年度以降については、今後の見直しとしまして、本を読むきっかけづくりとして、サンライブ内部において、本にちなんだ映画上映会を計画し、来場者の増加と原作本に興味をもってもらい、読書への関心を高めることができるような企画の検討を予定しています。以上です。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>作戦19の重点施策「ふるさと学習の推進」について説明します。令和3年度に副読本「みよし」を改訂しました。二次元コードを掲載する等、学習用タブレットを活用して学習できるように工夫をいたしました。初任者教職員対象の「みよしを知ろう」の研修では、カヌー体験や「歴史」「文化」「農業」等施設を見学して、みよし市について理解を深め、授業に生かしました。本年度は、さらに映像やアニメーションを活用することで児童の学びの可能性を広げ、深い学びへとつなげられるよう、「副読本みよし」のデジタル化を進めています。</p>
<p>西世古学校教育課主幹</p>	<p>作戦20の重点施策「学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集」について説明します。令和5年度までに全小中学校に地域学校協働活動推進員が設置できるように準備し、設置できた学校はそれぞれの特徴を生かした活動や課題を解決するために活動して成果が出始めています。令和3年度に三好中、令和4年度には、三好丘小、北中、南中、令和5年度には緑丘小、三好丘中、そして令和6年度は中部小、北部小、南部小、天王小、三吉小に設置いたします。設置できなかった学校については、設置に向けて準備をしており、スムーズにスタートできるように学校と調整してまいります。現在は</p>

	<p>各学校の推進員がそれぞれ学校と協力して活動を行っているが、継続して取り組むために何が必要かについて検討してまいります。</p>
大村委員長	<p>はい。ありがとうございます。それでは、作戦11から20までについてご質問等をいただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
大地委員	<p>作戦13についてお願いします。地域とともにある学校づくりということで本当にここに来てお話を伺っているといろんなところで活動されていたりとか、成果をあげられていたりとかしていることをお聞きして、いいなというふうに思っています。気にかかっているのが、保護者のところの位置付けといいますか、最近新聞とかでも、PTAの活動がうまく進められないとか、それから他地域でも子ども会がなくなってしまったりして、保護者が連携して力を合わせて行っている部分が、この地域とともにある学校づくりの中でどのように位置付けられているのかなということと、どのように考えられているのかなと、現状はどうなのだろうかということが気にかかっています。それと、家庭・地域・学校の連携という形でここにも提案されているのですけども、家庭・地域・学校で連携して目指す姿とはどういうところにあるのかなということ、その辺が難しいところでもあり、疑問なところでもあるのでお聞きしたいと思います。</p>
鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹	<p>まさにおっしゃられている通りで、今、PTAのあり方について見直しが行われているところも含めて、こちらのコミュニティスクールのあり方についても、学校によってというところもありますが、見直しをしていかないといけないなと思います。この辺りを整理していかないと地域や保護者や学校との連携体制というのが、弱くなってしまうところもあります。今いろいろな実践も各学校で取り組まれています、そういったところをいろいろな実践を取り入れながら、あとは学校の実情に応じた、よりよいコミュニティスクールのあり方を整備していく必要があるというふうに考えております。また目指すところというのは本当に究極的なところではあると思いますが、やはり子どもを育てていくうえで、学校と地域と保護者というのは、どこが欠けても、弱くてもうまくいかないのとらえています。それぞれうまく連携をして、よりよい組織や体制というものを作っていくということは、まさにこれから皆さんのお知恵を借りて進めていきたいと思っております。以上です。</p>
黒田委員	<p>作戦11のところをお願いします。35人学級本当に実施していただきありがとうございます。30人学級を市内の4年生で実施しているということで成果が上がっているということがあります。これを受けて少人数の方と教科担任制の方を目指してやっていくことと並行してやっていかれるのかなと思うのですが、この30人学級の方に教員がないという問題があるかもしれませんが、中学校の方でも実現していくという話が</p>

<p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p>	<p>あるのかどうかを教えてくださいたいと思います。</p> <p>少人数学級のあり方について、本年度からは小学校の方で、35人学級ではあるのですが、1クラス当たり30人を超える学年については、学年担当ということで副担任のような形で、市の独自の任用というのをしております。中学校の方という今お話があったのですが、まだこれから検討段階というところですので、いろいろご意見いただけるとありがたいです。以上です。</p>
<p>山田委員</p>	<p>お願いします。作戦14、15の生涯学習活動に関わることですけれども、私は今年度から小学校のPTA会長を務めさせていただいております、学校の活動や子育てに関することについて知らないことがたくさんあって、いろいろと知るきっかけがあったので正直この数か月でたくさんの教養が身に付きました。生涯学習に関しまして、みよし市の方がたくさん活動しているということも、調べさせていただいてわかってきたところでありまして、3点伺いたいことがありまして、1点目は、みよし市としては年齢層、ターゲットみたいなのが絞られているのかなと思ひまして、全国的に生涯学習というと、すべての年齢に対しての生涯活動になっているのかなと思ひているのですけれども、みよし市の活動に関してやはり、参加される可能性が高い高齢者向けの活動が多いのかなと見受けられる部分がありますので、我々子育て世代の教養を深める活動も増やしていただければなと思ひているところでありましてターゲット層が今どこにあるのかを聞きたいのが1点。2点目が、作戦14の左上のところに書いてある、生涯学習をしたいと考えた時に問題となることということに関する、1番が時間がない、2番がわからないといういろんな問題があると思うのですが、こちらに関する何か対策をしているのかなというのが疑問に思ったところでありまして。最後ですけれども、作戦14の右下ですね。延べ受講人数が書いてあるのですが、先ほどのターゲットにも関わってくるころではあるのですが、こちらに関して、どれぐらいの年齢層の方が参加されているのかなというのが見える化できればもっと次の施策に対して有効なかなと思ひますので、もし分かれば教えてくださいたいなと思ひます。以上です。</p>
<p>伊豆原生涯学習推進課 副主幹</p>	<p>生涯学習推進課です。年齢層の3番目にご質問されたところのデータを今は持ち合わせてないものですから、お答えできないのですが、高齢の方が参加の中心の部分ではあると思ひます。ただし、親子で参加できる講座を開催するようにして、比較的高齢者だけではない形で生涯学習を学んでいただけるような講座の開催に努めております。時間の余裕がないというところに関しまして、まず今、縦に長い、みよし市の中心にある、学習交流プラザサンライズの方で、生涯学習講座の開催をして参りました。令和5年度からなのですが、北部地域の方に人口の集中がありますので、おかし地域にあるおかし交流センターにおいて、生涯学習講座の開催をして、まず分散化を図ってきているところがございます。以上です。</p>

大村委員長	<p>年齢層についてはわからないということでしたけれども、作戦14の課題となるところの時間の余裕がないとか、どのような講座や活動があるのか分からないということに対して、どう対応されているのかという質問もございましたが、それについてはいかがでしょうか。</p>
伊豆原生涯学習推進課 副主幹	<p>時間がない余裕がないというところも夜の開催も一部行っているということで、ターゲットを広げるような形でやっているところでございます。</p>
山田委員	<p>ありがとうございます。大体わかりました。一言だけ言いたかったのは先ほど申し上げた通り保護者、子育て世代の教養というのは、こどもたちをみんなで大切に育てるということに直結してくることかなと思っていますので、我々にはなるのですが、子育て世代の教養が高まるような政策をたくさん取り入れていただけると、こどもにとってもいいことになりますし、市にとってもいいことがたくさんあるかなと思っていますので、そこに力を入れていただきたいなと思っています。回答ありがとうございます。以上です。</p>
鈴木睦子委員	<p>作戦14の今の意見に続いてですが、サンライブで行われる講座についてですが、高齢者が多いと言われましたが、地域が遠い方はわざわざそこには行かないです。申し込まないと思います。それで、おかよし交流センターにできたので、少しは参加するかもしれませんが、それよりも、高齢者のいきいきクラブがあるのですけれども、そういう本当の地域にある小さなところで、いろんな生涯活動を行っています。それについては、この統計には入りません。この統計はサンライブでの活動ですので、でも本当にいろんな活動していますので、やってないわけではないです。サンライブまで車を出したり、バスに乗ったりしてまでは、参加されない方のほうが多いのではないかと思います。以上です。</p>
伊豆原生涯学習推進課 副主幹	<p>生涯学習推進課としても地域でいきいきクラブさんが生涯活動を開催しているというのを把握しております、他の各課の方にはいきいきクラブを担当している長寿介護課以外の他の課の方でもそういう生涯活動を実施しているというデータを収集しているといったことは行っております。以上です。</p>
大村委員長	<p>はい。ありがとうございます。この作戦15に関わって私の方から少し質問させていただきたいのですが、成果指標の生涯学習活動登録団体数が、今回減ってきているかと思えます。これは多分サンライブへの登録なので、今御発言があったような、みよし市全体の活動団体がどうなっているかということがここには反映されていないと思うのですが、差し当たってまずこの登録団体数が減っている状況について、なぜかということ、あるいはそれに対してどういう対応されているかということをお聞きしたいと思うんですがいかがでしょうか。</p>

伊豆原生涯学習推進課 副主幹	生涯学習推進課です。もともと令和2年の時に、基準ということで64団体あったところから、減少傾向にあったところの一番の影響というのがコロナであり、コロナ禍における生涯学習活動というものが、なかなか制限がある中で行うところの難しさはあった部分で、48という数字に減ってきている部分あると思います。ただ、令和5年以降、コロナが少しずつ落ち着いて参りましたので、徐々に増えてきているところあると思うのですが、もともとあと64のところはすべてコロナが収束したことによって復活できるかというとなかなかそういったことも難しく、年齢層が上がった団体がもう活動が難しくなってしまったという話も聞いております。そういったことも含めまして、今後その登録団体数をどのように増やしていくかというところは、今、生涯学習推進課としても模索しているところです。以上です。
大村委員長	これも一般的には、やはり活動の中心を担われている方が高齢化してきて、活動が立ち至らなくなるということはあるかと思えます。ただ一方で、先ほどの山田委員さんのお話もありましたが、つまり新しい団体が生まれてないのではないかということが少し危惧されるのですね。ですからもっと若い層の活動がどう励まされていくかと、市として支援するかということが今後課題になってくるかなというふうに思います。その他いかがでしょうか。
黒田委員	作戦の18をお願いします。先ほどからサンライブに来ることが難しいという現状があるかなと思うと、映画の試写会を無料で行うということはすごくいいかなと思うのですが、例えば、巡回でバスとかトラックに本を載せて、公民館とか児童館を定期的に巡るとか、ピザの宅配みたいに本を宅配するサービスをするとか、本を届けるようなそういうサービスがないとなかなか難しいところもあるのかなあと思いましたのでそんなことは考えてみえるのかということをお聞きしたいです。
伊豆原生涯学習推進課 副主幹	中央図書館です。まず配本としましては、サンライブからサンネットには図書スペースがありますので、そこに配本を行うなど、図書館だけではないところでも、図書の貸し借りや返却ができるような形の体制をとっております。また、学校配本を行っておりまして、なるべく広い範囲で、図書の貸し出しができるような体制は少しずつとっているような段階です。ただ、バスとかそういったものに関しましては、費用対効果のところを考えますと、今のところ難しいのではないかと考えております。
大村委員長	はい。図書館については、今は分館はないということではなかったですか。
伊豆原生涯学習推進課 副主幹	現状では1か所であり、三好ヶ丘の駅前のサンネットは、図書コーナーという形でやっております。

<p>大村委員長</p>	<p>それでは時間が参りましたので、再開させていただきます。グループ別協議になりますがその前に事務局よりご説明があるということですのでよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局 多治見</p>	<p>こどもたちと保護者が、小中学校の学校評価アンケートにお答えいただいているものがあります。昨年度の結果で非常に高い数値だと思っているものがこの3点になります。学校は楽しいですか、学校の授業はわかりますか、友達と仲良く過ごしていますかという質問に対していずれも90%近く、もしくはそれ以上という数値となっています。次は、全国学力学習状況調査の質問紙というものがあるのですが、こどもが答えた回答で、全国と比べて高いなという割合になります。小学校6年生でいうと、先生がよいところを認めてくれるが、4.7%高いですし、中学校3年生については、困りごとがあるときに先生に相談することができるという回答した割合が5.5%高かったです。また、すごく顕著だったと思うのが、最後ですけれども、地域の行事に参加していますかという問いに対して、全国と比べて小6がプラス8%で中3では、プラス18.7%という、本当にこれは目を見張る結果になったかなと思っています。そもそも全国の数字が低いというところもありますが、みよしのこどもたちは、特に中学校は、機会があれば、地域に貢献したいとか参加したいという思いをもっているのではないかと感じました。一方で、低いなという設問もありまして、1つ目が、家で自分で計画を立てて勉強していますかという部分です。これが教育プランを目指す人間像のところ、将来にわたって自らを磨き続けるという部分があるので、その辺との関連に考えると、意識していかないといけない結果かなと思っています。それから、自分と違う意見について考える楽しいという質問に対しても、低い数値が出てしまっていますので、今後、他人に興味関心をもって、ともに協働して学んでいこう、そしてふるさとみよしを築いていこうとなれば、この数値も意識していきたいなと思っています。それから最後なるのですけれども、外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしたいということに対しても、この後の提案に繋がってくるのですが、10年先の教育見据えると、見過ごしてはいけない数値になってくるのかなと思っています。実際に振興基本計画を作っていくうえで、国の方で教育振興基本計画が作られています。令和6年度から9年度にかけての計画になりますが、この方針をもとにみよし市の計画も検討していかないといけないと思っていますのですが、そこに書かれている主なものを挙げさせていただきますと、2つのコンセプトがありまして、一つ目が、持続可能な社会の創り手の育成ということが言われています。今まさに、将来の予測が困難な時代ということで、自分たちで答えのない課題について、主体性をもったり、リーダーシップを発揮したりとかして、指示待ちではなくて、主体的に学び続ける力が必要なのではないかと言われています。それから二つ目なのですけれども、日本社会に根差したウェルビーイングの向上が挙げられており、今後、日本の人口減少が想定されています。したがって、異なる国とかそういった方々と、ともに</p>

生きていくことが求められていきます。多様な個人が幸せになる。そしてやりがいを感じられる。また、地域や社会の幸せや豊かさを感じられるような取組がキーワードになってくるのではないかと考えております。その中で5つの基本的な方針というものが示されておりまして、小さくて見づらいたと思いますが、1つ目がグローバルな考え方、2つ目がすべての人の可能性を引き出すこと、3つ目が、地域や家庭とともに学び支え合うことで、4つ目が教育のDX。最後5つ目には、対話がキーワードになっています。さらに、みよし市全体で見ますと、第2次みよし市総合計画というものが作られております。これが大元になりますので、このポイントも確認したいと考えています。今年度から5年間にわたって推進していく計画になります。タイトルにある通り、「みんなで育む、笑顔輝くずっと住みたいまち」ということで、やはりみんなであってという言い方がされています。社会全体でこどもの居場所や家庭支援を行うこと。それから、地域でこどもの居場所づくりをしていくこと。家庭支援もできるような体制にしていくこと。そして、異なる年齢、性別、国の人と交流できるようにしていくことが方針として挙げられております。これが特に教育という分野で載っているところにはなるのですが、子育てという言い方ではなく、人育てという言い方をしておりまして、決して子どもたちだけではなくて、保護者の支援もそうですし、社会に出てから大人になってからの支援というところも市として行っていきたいという方針が掲げられております。これまで内容を整理していきますと、みよしの子どもたちは、地域のことをすごく気にかけていて、行事の参加率も全国に比べて高い方でありまして、それから学校現場では本当に学校の先生方のおかげもありまして、先生と子どもたちの関係性が良好であると。しかしながら、多様性という観点でいくと、外国の子たちについての関わりという部分で、少し弱さがあるのかもしれない。今後、人口減少が見込まれ、国も市も、異なる年齢、性別、国との関わりというものを挙げており、共存していく力がこの先大切ではないかなということも考えております。また、学校や保育園、幼稚園だけでなく、家庭とか地域が連携して育てていくことがポイントではないかと考えています。これから地域学校協働活動の推進充実も一つの鍵になってくるのではないかと考えています。学校ごとに地域の特色を生かした取組を行うことで、子どもたち同士の連携が深まるだけでなく、地域、家庭、それから教員もともに育ち、強い繋がりが生まれ、本市の大きな財産になっていくことが期待されています。

本日は、大変時間が短いですけれども、この先10年見据えた時に学校ではどんな教育が必要か、それから社会教育としてどんな教育が必要かという部分を今日参加されている方々のお立場から、普段感じられているなどをお話していただくと大変ありがたいと考えております。予測困難な時代を生き抜くために必要な教育ということでテーマを挙げさせていただきますので、よろしく願いいたします。なお、3グループに分かれる時には指導主事がついて、取り回しやホワイトボードにまとめをさせていただきます。何かご不明点等があ

<p>大村委員長</p> <p>西世古学校教育課主幹</p> <p>大村委員長</p>	<p>れば、お声掛けください。よろしくお願いします。</p> <p>はい、ありがとうございます。それではこれからグループでの協議に入りますが、1点、先ほどの学童保育についての御回答が後でということでしたので、お願いできますでしょうか。</p> <p>委員長がおっしゃるように、地域の偏在性があり、待機児童が発生している学校については、変わらず利用児童数が減らないため待機児童が発生し、それ以外の学校については利用児童数が減ったため全体として減少しております。以上です。</p> <p>はい、ありがとうございます。それでは、今からグループ協議に入りたいと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>新美教育部参事</p> <p>丹羽委員</p> <p>本松こども未来部 保育課長</p>	<p><Aグループ協議></p> <p>今日については話がみよし教育プランを進めて行くにあたり、令和8年度からどんな教育をしていったらよいかという方向の話し合いができたと思います。実際この20の作戦の中に、こうしていった方がいいじゃないかというものがあればと思います。今はそうした方向も大切ではないかといったたたき台になれば、今日は十分かと思います。まず皆さん考えるこれからの時代、こんな力を身に付ける必要があるんじゃないかっていうところの考えをお聞かせいただけたらと思います。いかがでしょうか。</p> <p>小学校でのコロナの影響としましては、まず、特に高学年ですけど、マスクが外せない子がいます。素顔を見たことない子もまだ学校にはいまして。こんなに暑くなってきたら、外せばいいのと思いますが、給食でも、ずらして食べてという子までいます。こどもたち同士の関わりについては、年齢が上になればなるほど、自然な感じでできていますが、一、二年生は特にですけども自分の思い通りにならないと大声で泣きわめく、そして教員が何か別の提案をするのを待っている。例えば、計算がどうしてもしたくない場合、教室の外へ飛び出すと教員が追いかけてきてくれる。違う部屋で一对一でやるかみたいな声をかけてくれるのを待っている気がしています。とりあえず我慢ができない子が多くなっているなどという印象です。支援を要するお子さんではなく、通常学級の子でもそう感じます。</p> <p>園については、年齢がさまざま違うので普段からもうマスクはしてなかったりとか、していたりとかですが、職員の方が、今までも交流をさせないというところから来たものですからそれを戻すというところで、保育の感覚を今元に戻しつつあって、ようやく戻ってきたところです。だからこどもはそう影響はないので、一時期、職員がマスクをしていたことによって口元が見えないことで、発語に影響がどうだという話もありましたが、その部分は、こども相談課の方で統計</p>

	<p>をとっており、1歳半とか3歳児の健診とか、今ちょうどその人達がコロナ禍で生まれているのですけど、母親もマスクをしているなかだったので、今後、数字的なものが出てくると思います。</p>
山岡委員	<p>長男が中2で自転車通学ですけど、顎マスクしながらヘルメットをかぶっていて、なんで取らないのと聞いたら、付ける機会が学校であって、給食でつけないといけないとからしく、とったり、つけたりっていう動作が面倒くさいようです。ポケットに入れると落とすかもしれないとかそういう何か余計な心配というか、落としても誰かが拾えばいいと思うけれども、何の心配をしているか、分からないですがしたいようにすればとほかっているけど、そんなに気にすることではないのにと私たち世代は思うのですけど、余計に気にし過ぎているのか、面倒くさいが来ているのかが分からないです。</p> <p>小学生の子はしてないですね。給食のときだけするようです。友達とかだと、やはり周りではマスクずっとしているとかいう子もいますし、人の家に上がりこんで遊ぶということが減ったかなと思います。うちは近所のつき合いが結構密で、お友達の家に行かずと遊んでいるとかがあったのですが、コロナのあとからは公園にゲーム機をもってきて遊んでいる子がいまだにいるので、コロナが5類には移行したけど、何となく、恐怖心とかを引きづっているのかなと思うこともあります。だから外だと多分、他人の子とどう接しているのかというのも、保護者は分からない。家に来て遊んでくれていると他人の子が学校ではないところで、あいさつができる子とか分かるのですが、そういったことが見えなくなっているのです。コロナの影響は大きいです。</p>
富樫委員	<p>先ほどの先生の発言で思ったのですけど、思い通りにならないと泣きわめくとかで、私は中学校で、心の相談員を10年間ほどやっていたことがあって、大抵そういう子は、かまってもらいたい。今働いているお母さんがほとんどで、やはり親の愛情を求めている。賢いお母さんは自分が働いている時間以外でも、ちゃんとこどもが寂しい思いをしないように対応されている方は多いと思うのですけど。こどもって素直じゃないですか。思い通りにならないと泣きわめくとか。やはり満足いかない部分を誰か他の人で満たされたい。計算してやっているわけじゃなくて、もうそれは本能的なものだと思います。やはり親たちも考えるべきことであって、今私たちがこうやって、一生懸命、本当にいろいろ角度の人から意見を出して一生懸命討議して考えていることを一般の親も知るべきであって、自分はどうしたらいいかと考えて親も成長していかないとこどもは成長できないと思います。だから、私はもう高齢者ですけど、高齢者もこれでいいということは絶対ないので、間違ったこともあるかもしれないので、また成長させていく必要があるし、先生たちもそうだと思いますし、やはり人間はいつでも学んでいかなければならないので、PTAの問題とか私はコーディネーターとして中学校には入っているけれども、小学校も今年から入らせていただいて、見</p>

	<p>させてもらったりいろいろ聞いたりしている関係で、やはり今、母親として、親としても、お金や自分の仕事も大切なだけども自分のこどももだめだったら世の中が育ててくれるだろうという安易な気持ちもいいんですがそれプラス、自分もちゃんとかかわっていくという心構えを私はどこかでもってほしいと思っています。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>小学校では、保護者対象に講演会のような市から補助金もらってやることはありますけど、もう参加率が非常に低くてだから有効になっているかというところではない気がします。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>どこかの中学校か小学校で卵を配ったらいいですよ。授業参観で。そうしたらたくさん来たようです。すごく安いお値段で、普段の半額ぐらいで配ったら参加率が上がった。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>保育園で今、0歳児とか1歳児を受け入れるのが一つの売りになっているような感じすらしますが、大きくなったときに、愛情が十分に行き届かなかったなんていう話は出てこなかったですか。</p>
<p>本松こども未来部 保育課長</p>	<p>出てきているかでないかというところやはりそれぞれの家庭の子育て感にもよると思うんですけども、0歳児から預けているからといって愛情がないとかそういうことではないと思います。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>専門の立場から言わせていただくと、私本当にたくさん現場行かせていただくと、もしかしたら保育園にいた方が幸せなのかもしれないぐらい、とてもいい保育を保育士さんたちしてくれています。確かに私がたくさん映像などでお母さんたちへ子育て講座もお見せすると家にいるよりも保育園に預けた方がいい子になるのではないかと。でもそれとは別で、愛着形成であれば、おうちでということもありますが、長い時間だらだら、お母さんとこどもで個室のところであらいらしながらいる方がいいのかといったそうではなくて、密度と言いますか、そこが家庭教育はポイントになると思います。こどもの心を育てる作戦8ですが、これがすごく大切で、親が忙しかろうが、経済的にしんどかろうが外国籍で言葉がわからなくても、心がすごく豊かな子は多分、この社会を担っていくことができると思うのですね。自己肯定感、自己有用感をいろいろ立場の人、学校だったり、地域であったり、保育園だったりというところで、「共育」「協育」というところがすごく重要になるのかなって思いますが、どうでしょうか。</p>
<p>平山委員</p>	<p>コロナの話ですけれども、やはりこれで、1回、読み聞かせのボランティアとかもやめてしまった知り合いがいて、やっていた方々がなかなか戻って来てくれない。どうしても人がいないので、読み聞かせの数も減ってくるしその辺がコロナの影響かなと思っています。</p>

渡辺委員	<p>絵本の読み聞かせとか、講演童話というのをやります。ストーリーテリングとはまた違うのですが、生の声で子どもと関わり合うということはすごく大切なことなので、そういう読み聞かせとかは小学校の授業では難しいのかもしれないけれども、定期的に行うとかは難しいですか。学校でやっておられるところはないですか。</p>
丹羽委員	<p>うちの学校は月1回位ボランティアさんが来てくれています。学級で好きな担任がやっているということはあります。なんか確実にそういう場所で定期的に行っていることがやっていけるといいと思います。</p>
山岡委員	<p>それが心を育てることにつながればとよいと感じます。1点、外国人に対するといった話があったと思うのですが、やはりALTさんが入っていただくとすごく効果的だと思うのですが、昔から思っていますが、生きた英語という意味で、小学生の英語ですね、今どうやってみえるのかなと。手段として、ネイティブの方が話すアニメをずっと流しておくとか先生方の負担もないだろうし、ただ子どもはすごく動画なので、くいつくと思います。耳もすごく育てていけると思っていますので、ぜひ検討していただきたい。</p>
新美教育部参事	<p>そうですね。英語については、ALTを小学校だと全部どっぴかに担任とALTがペアを組み、担任が指示を出したりして、発音はALTが行うといった教え込みではないものですから、やはりゲームだとかチャンツだとか、子どもたちが楽しめるようにしている。ALTと相談しながら、いまでも生の英語を聞く機会があるけど、動画なり、そういったものを一つ流しっぱなしにしておくだけでも少し違うのかなと思います。</p>
山岡委員	<p>以前私が子どもの時に住んでいた地域で、毎朝となりのトトロの曲を登校時間に流している学校があったのですが、その歌を歌いながら中学生が歩いて登校してくるんですね。うちは聞こえるところに住んでいたんで、その歌が聞こえるような時間になると保育園に出発するというようなことがあり、中学生が口ずさんでいるだけでもほほえましいなという記憶が未だにあるので、英語の部分にもつながるのではないかと思います。別件ですけど、学習の視点で、今ラーケーションでお休みする子が自由に取れるようになってきて、これからは多分そういう時代になってくるのかなということがあって、でも授業を休むことになるじゃないですか。今、中学校の方は黒板の写真を撮ったものを自由に見られるという状態になっているのですが、それだけではやはり分からない。読んで自分で、多分復習してなんですけど、やはり授業と同じように声が聞けて先生が指導しているところを極端に言うとその日の授業も動画にして配信だとか、多分自宅学習している方とのオンライン授業とかにも繋がると思うのですが、そういう流れにはなっていくと嬉しいなということがあります。自分の子もいつそういう不登校になるかもわからないので。</p>

<p>丹羽委員</p> <p>廣川学校教育課主幹</p> <p>渡辺委員</p>	<p>自分は算数、数学が専門なのですが、みよし市が採用している啓林館という教科書会社が今年から教科書が変わって、二次元コードが至るところについていて、解説を聞きながら授業が受けられますので、そういうことで学力ととらえるのであれば、教科書のものができる、できないということだけでいいならば、大丈夫です。中学校も来年度改訂になりますけども、いっぱい二次元コードがついています。自分たちが使っていた中学時代の教科書とは全然違います。音声も聞けますので、ちょうど英語の先生がそこにいますが、数学は家でできますが、英語はどうですか。</p> <p>英語の教科書にも二次元コードがついていますので、やれますが、やはり一方向になってしまうので発音も合っているかどうか自信がもてないところにもなってしまうのかなと思います。後は実際は生の対話になってくるので、対面でないとなかなか厳しいかなと思います。</p> <p>大学なんかだと可能であれば、Zoomでつなげちゃって、本当にライブでできるし、その子が顔を出せる状態であればそこで直接こうやりとりをしてということをしてしまいますけれども、それがちょっとしんどい場合には、Zoomの録画をとって、アップするということができるので、先生の最初の動機付けみたいなところだけでも取って、動画で見られると、全然知らない人の話を聞くよりかは、自分が所属しているクラスの学級担任の先生のお話聞けて、可能であれば、クラスメイトの何か発言も聞けば、例えば不登校になっても何か繋がっている感じはします。</p>
<p>鈴木睦子委員</p> <p>鈴木教育部副参事兼学校教育課主幹</p> <p>鈴木睦子委員</p> <p>黒田委員</p> <p>鈴木睦子委員</p> <p>黒田委員</p> <p>鈴木睦子委員</p>	<p>< Bグループ協議 ></p> <p>PTAの加入率が下がってきている部分があり、すごく心配している。そういうことがなくなってくると、地域の連携が考えられなくなる。</p> <p>地域連携をする場だとか組織だとかそういったものをもう1回考え直すべきではないかということですね。</p> <p>ジュニアクラブとかがなくなったら、もう地域のごみゼロ運動にも参加しないといった流れになってしまうのではないかな。</p> <p>実際に北中においても、ジュニアクラブが二つぐらいなくなってしまっている。</p> <p>そうですね。この先、地域の集まりが激減していった場合、親同士、こども同士のふれあいがなくなってしまうことは本当に危惧していますので。</p> <p>行政区単位のゴミ拾いとかはあるとは思いますが、そこに生徒が参加するかどうかは分からないですね。</p> <p>これまでは、ジュニアクラブのお母さんたちがこどもたち</p>

	に参加しようとして後押ししてくれたのでよかったけれど。
黒田委員	地域の祭りなんかも吹奏楽部や太鼓クラブに対してどうですかと言ってくれて、参加することがあったりとかして、今、北中学校においてもコミュニティスクールのなかで、敬老会に生徒が実行委員を募って、敬老会の司会とゲームをしながら参加しています。
鈴木睦子委員	黒笹の公民館にも中学校の子たちが来てくれて、交流をしました。会ったこともない若い子たちと、私達はゲームをしたりして、すごく楽しい時間を過ごすことができました。
黒田委員	中学生がこのような活動をしていくと、次は、地域の方が、何かやれないかと考えてくれるようになると思うので、持ちつ持たれつの関係ができあがるといい。イベントごとだけでなく、日常的にやっていけるようになればと思います。
鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹	話は戻りますが、そのような地域とつながりやかかわりをつくっていくために、どのような力を育てていけるとよいかということですが。
黒田委員	やはり、自己有用感だと感じています。地域の方に感謝されて、「自分でもできるんだ」という思いになる機会になるので、高まっていくとよいです。
鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹	そのために地域のつながりが必要だということですね。
清水委員	こどもたちには自己肯定感を高めてもらいたいと思っています。それが高まるとやる気も出てきて、行動することができるけど、こどもによっては、時間がかかって、ようやくエネルギーがたまって、動ける子もいるので、先生たちには一人一人をしっかり見てもらえるとありがたい。しかし、そのためには、先生たちは授業以外でもやる事が多くて忙しいので、人材を何とか確保して、いろいろな子をじっくりと見てもらえるようにしてもらいたい。
鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹	幼稚園の方はどうですか。小さい段階から自己肯定感を高めていくような部分は。
岡田委員	幼稚園に関しては、何も文句がないです。一人一人をしっかり見てくれて、小さいことでもほめて伸ばしてくれて、自信をもたせてくれるけど、小学校ではこてんぱんにやられる。怒鳴り散らしている先生もいる。小学校現場でも、この教育プランで載っているような作戦をおろしていただきたい。
鈴木睦子委員	小学校は1クラス1担任ではなくて、もう一人ついて、見回るといいのではないかな。先生の人数が増えるとありがたい。
鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹	教員数を増やして多くの目で見えていこうとはしているが、なかなか簡単ではないので、そのために地域の方に入ってい

	<p>ただきながら、いろいろな立場の方に協力いただきながら連携していくことが大事だと思っています。</p>
清水委員	<p>ふるさとみよしを好きになるというところで、猿投古窯といった話もありましたが、やはり人とのつながりが大きいと思います。こどもが小さいときに子ども会とかでかかわっていた子が、犬の散歩をしていると声をかけてくれたりして、うれしい思いをするとその土地を離れるということにはならなかったりするのではないかな。</p>
鈴木睦子委員	<p>親がその地域で楽しんでいると子どもにもつながって楽しくなる。</p>
鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹	<p>先日、こども政策課でのこども会議でもありましたが、こどもが元気であるためには保護者が笑顔になったり元気があったりすることがやはり大事なのでサポートが大事ではないかという意見も出ていました。</p>
黒田委員	<p>あきらめない力というか、部活動などの人間関係で嫌なことがあるとすぐにやめてしまうことがあるし、勉強などでも辛いことがあったときに乗り越える力、我慢する力は大事だと思う。予測困難な時代だからこそ、思い通りにならないことが多いと思えば、何があっても対応できるしなやかな心が大事になってくるのではないかな。</p>
鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹	<p>レジリエンスという取組も各校でしていただいていると思いますが、しなやかにそっとかわす力、我慢する力は並行して大事なのかなと思う。</p>
岡田委員	<p>昨年、小学校で縄跳びの8の字跳びの取組があったと思いますが、見えない相手なのにも関わらず、オンラインでも盛り上がりました。集まって行うことは難しいですが、オンラインでもよいので種目をどんどん増やしてほしい。</p>
清水委員	<p>ICTもいいですが、やはりそれだけにならないように、実体験を入れてほしい。読み聞かせとかでもそうですが、読んで聞かせることで、想像力を育てることににつながり、それはこれからも大事な力だと思う。</p>
西世古学校教育課主幹	<p><Cグループ協議> 目指す人間像を決めていくうえでこの10年先を見据えた学校教育社会教育のあり方ってということで、皆さんが違う立場で見えますから、それぞれの方たちにとって目指す人間像について話し合っただけであればと思います。</p>
大地委員	<p>よろしくお願ひします。このテーマをいただいて、10年先は本当に想像がつかない、壮大過ぎてどうなのだろうというふうに考えて、こどもたち、大人も含めて、やはり対応力とか柔軟性のある人間であることが大事かと思ひます。新しいものが、私たちが想像もつかないことがやってくるため、対</p>

応力や柔軟性がある人間を育てるためには、こどもたちはどうしたらいいかと考えたときに、いろんなことを体験したり、もっと言えばたくさん遊んだりしていることが大切なのかなと思いました。あと、社会教育の立場で考えたときに、みんなが学べる、先ほど山田さんも言うてくださっていましたが、みんなが学べる、学ぶことを楽しむということが出来る市であって欲しいなというふうには思います。それは与えられている機会であったり、自分たちで作り出す機会であったり、文化面で行政の方に伝えて、そういうところもあると思うんですけども、提供しているところもあると思いますが、みんなが喜んだり、楽しんだり出来る市であれたらいいなと考えております。

鈴木政之委員

自分は高校の方なので、カテゴリーが違ってくると思いますが、愛知県の高校でいうと、今高校も大きな転換期を迎えています。というのは学校の魅力化だとか、それから中高一貫校が県内で四つスタートしますし、フレキシブルハイスクールというのが、要するに単位制の普通科と昼間定時制と、通信制課程を一つの学校にまとめるという学校が四つスタートしていきます。そういう中での学び方になってきて、普通に教室で勉強してというだけのことではないことが要求されてきますので、先ほどの話ではないですけど体験活動とか探究的な活動というのが、一つ鍵になってくるのかなというところはあります。最近いろんなところで話が出るんですけど、例えば高校でも、今までは最終的に進路の目標を達成させるために、それに向かっていく電車に乗せてあげるといった指導をして、正しい電車に乗せてあげれば、目標に向かっていく教育をしてきたけれども、もうそうではなくて、目標に向かって、自分で車を運転して、辿り着く力をつける。要は、判断力だとか、対応力だとか、あとどういうルートで行けばいいんだとか、思考力だとか、そういうものが確実に必要になってくるわけで、これからは教員が指導して、正しい方向にポンと乗せてやるということではなくて、自分でたどり着くために考える力とかそういうものをどうやって育てるのか、実際にそういうことを育てているのかということが重要だということが進んでいっています。

その一つが例えばICTを使った授業とかってなるんですけども、いろいろ問題点もあって、ICT使うとなると、ICTが目的になってしまうことがあるんですけども、あくまでも手段という考え方をしないとICTを使えばいいとなると、今までの要するに書いたり、読んだりというような学習がどんどん少なくなってきた、タブレットを使って授業すると基礎的な力をまず、ベースをつけて初めてそれをどう生かすという、もっていき方をしないと、順序が逆になってしまうので、学校の中ではやはりベースはやはり教えるというスタートして、それをベースに次にどうするのかというところにもっていくことがこれからは大事なかなと思っています。いろんな意味で、僕らがスポーツ方の学科がある学校なので、中学校が地域スポーツクラブに部活を手放していきます。最近大きな話題で全国の中学校大会で、もう取り止めになる種目が出てきます

のでこれはものすごく大きなことで、結局地域クラブを先に作ろうが全国のシステムが変わらなければ、そんなに変わらないのですよね。でも、中学校で全国のシステムから変えてきたので、多分大きな波が来ると思うのです。そうすると高校は、部活とかスポーツの面だけで言えば3年経つと中学校で、クラブをやっていない子たちが高校に上がってきますが、高校の仕組みは正直変わっていません。

そういう子どもたちが高校に入ってきた時に、高校の教育はどういう動きをしていくだろうかということが、これからの大きな課題になるのではないかなと思っています。授業とかそういうことはおそらくタブレットとかも進んできて、もともと中学校は1人1台タブレット、小中は初めてだったので国が導入したのですが、高校は基本的には1人1タブレットではなかったです。BYODなので、要するに環境は設備しますが、使うものは自分のものですよとかスマホでもいいし、タブレットのベースは自分のものですよというところからスタートしましたが、コロナがあったおかげで、一斉に入るようになった。でも、これが多分更新時期がきて、BYODに戻すかもしれない。要するに自分のデバイスでやるということが出る可能性もあるので、それはそれで別にスマホを使って一緒に授業すればいいことだと思うので、10年後というと、大分変わり、中学校や小学校ががらりと変わってくるので、その子たちが上がってきて、今のままの高校のシステムでどうなんだろうと思いますけど、例えば部活動に関しても高校の全国システムは何も変わっていないので、あるいは不登校生徒の対応とかいろいろありますが、文科省が決めている高校卒業するための小学校って出席日数の対象となりますよね。それが何も変わっているわけではないので、その制度の変化と対応の変化というのが、ミスマッチしているのではないかと最近思うので、10年後を見据えてしまうと、まず制度の問題が出てくると思うので、それを置いといても、やはりさっきの車で運転し目的でいくではないけれど、対応力とか柔軟性だとか思考力とか判断力とか、そういうものをどうやって現場で育てるかという方策というのが、やはり学校の中のこれは大事なことでないかなと思います。

山田委員

私は保護者の立場で発言させていただきますけど、やはり対応力や柔軟性というのと一緒なのですが、変化に対応できる人間が必要だと、変化に対応できるこどもづくりであったり、保護者づくりであったりが必要かなと思っています。世の中がいろいろ変わっていく中で価値感も変わっていきますと先ほどのPTAの話もそうなのですが、今PTA会長を務めさせていただいて今後PTAが必要なのか必要ではないのかとかそういう議論が当然ある中で、保護者も今までだったらPTAは当たり前だったのが、当たり前ではないよねということが起きてきます。その中で単純に流されるのではなくて、そこでPTAって何だろうと学ぶ力というのが保護者にも必要なかなと思っています。力を持っている保護者のお子さんは、きっと同じように身につけてくるのかなと思っています。先ほども申し上げた通り、保護者の教養やいろんな能力はこ

どもに直結するものだと思っています。実例で言うと、公園で遊ぶこどもたちの親御さんの繋がりの中でもやっぱり同じような教養の持ち主同士が集まる傾向にあると思います。

例えば、会話能力、コミュニケーション能力、少し汚れた話でいうと、親の年収などそういうのもすべて踏まえて、教養からスタートしているのかなと思っています。学ぶ力を身につける。先ほどおっしゃっていたように自分で車を運転できるこどもづくり、保護者づくりに目指す人間像をもっていていただきたいと思っています。それには今まで経験者である、高齢の方や見識をもった人たちの力添えが必要であるかなと思いますので、その辺の力を借りて、若い世代のこどもたちの教育に力を入れていただきたいなと思っています。以上です。

林委員

保育園の代表でお話をさせていただきます。本当に10年先という、さっき大地先生が言われたみたいに本当に時代の流れが速いので、どうなっているのかなというところ考えさせられるけど、やはり基礎基本というのは一緒のかなということを感じています。本当にこどもたちが楽しい経験をたくさんする、その経験を生かしてどう自分で考えて、先ほど言われたみたいに、応用していくところが大切なのかと思っていて、今保育園では自分が若い頃は、今日はこれをやってというところからスタートしていた時代なのですが、やはりよくよく考えると、すごく苦痛でそこに過ごしていたのだろうなということ、本当に振り返ると思うけど今本当に先生たちって、いかにこどもたちが楽しく生活ができるような、経験ができるような、苦痛の時間ではなくて、自分で考えて楽しいというところを考えると保育はさせていただいているので、本当に実体験が一番大切だよというような話がありましたが、本当に経験をしながら、上の子を見て、そこで経験をして、上の子は下の子が困っていたらどう声をかけてという繋がり、縦の繋がりも大切にしながら、日々保育はさせていただいてはいるんですけど、本当に保育の形が変わってきて、昨年、幼保小中交流会をうちの園でやった時に、普段本当に時間で動いてないのでこの子たちが一年生になってチャイムで生活ができますかというところでは、この先生に質問をしたら、やはりそうやって自分で考えて動いてきて、自分の意見が言えたりするような子はチャイムで行動できるが、反対にそういう経験がない子ほど、チャイムで動くことが難しいというお話を聞いたときに、やはり今の保育でいいんだということを感じて、本当に保育の基本は10年先も変わらないのかなというところと、本当に楽しい経験をたくさんしてそこで学んで人と繋がっていくことは変わらないのかなとすごく感じています。でもその中でやはり本当に時代が目まぐるしく変わる中で、本当に今インクルーシブ保育とかいろんなことが言われている中で今までは加配が1人ついてこの子のできないところは、取り出しをしてできることをやる保育から、その中にこどもたちを入れていく保育に変わりつつあることをすごく感じているので、そういう保育が変わっていくところとか、ジェンダー、性教育とかもこ

	<p>れからもっと必要になってくるだろうし、本当にコロナ禍で地域とのつながりがなくなってしまったというのが現状なのですが、これからまたもっと、小学校でも地域というところが出てきているので、保育園ももっと地域との関わりを大切にしながら、小学校も含めて繋がっていったらなというのをすごく感じているところです。あとICTの問題も便利にはなっていますが、そこから出る負の部分もあるのでそれをどのように子どもたちに伝えていくかなというところも本当にこの10年ですごく変わってきて、デジタルタトゥーとか、情報の本当に難しい部分も、保育園もICT化によってでてきている部分もあるので、この先ともっと問題が出てくるのかなと感じています。以上です。</p>
<p>鈴木康之委員</p>	<p>私の立場から言うと、中学校、小学校での部活という一つの教育っていう、そういう考え方があったと思いますが、どんどん変わってきてしまって、先生が言われたみたいに、もうじき中学校部活動がなくなるというのはそれをどういうふうにするか考えながら、スポーツ推進委員のなかでも話が出ているし、地域総合型クラブでもそういう話があるし、私は中学校のソフトテニス部をやっていますけど、ソフトテニスの中でもどうやっていくかという部分で混乱しています。指導員もどうしていくか、それもまた困って、みよし市では、一応連盟が4月から多少面倒見るといって来ていますが、部活の先生がいなくなるまで、あくまでも先生がやるけれど、そのあと、連盟とか、募った指導員がいいということになっていますけど、まだすぐには対応できないので待っていますけど、スポーツが今後、なくなっていくということはないので、将来的には健康とか自分の問題とか、そういうものもあるので、続けられるものなら、絶対続けていく方が間違いないことだと思っています。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>それでは時間も来ましたので、グループでの議論をご紹介いただきたいと思います。Aグループからお願いいたします。</p>
<p>廣川学校教育課主幹</p>	<p><Aグループ発表> まず考えていく上で、やはりコロナ禍によって、どのような変化があったのかなあということをまず挙げていきました。そういった中で、学年が上がるにつれて、コロナ禍の影響は少ないかなということで、小学校低学年は、自分の思い通りいかないと、もうちょっと泣きわめいてしまうような、忍耐力の低下が見られるのではないかと、また、保育園は大きな変化がないけれども、それが実際は小学1年生に繋がっているのかなというのを分析したところ、マスクを外さない子どももまだいる。それは面倒くさいからつけているとは答えているが、実際何が原因なのかなあというのも意見で出ました。またコロナ禍に比べて友達の家へ上がって遊ぶことも減ってきているのではないかと。それによって自分の子どもの友達がどんな子なのかということも分からなくなってきた。また、読み聞かせ等、先ほどもあったと思いますが、いろんな活動に参加する人が減り、コロナ禍前に比べたら戻ってきていな</p>

いのではないかという意見が出ました。まず、この忍耐力の低下については、かまってもらいたいところから、かまってもらえるように思い通りにならなかつたらかまってもらえるまで待っているという状況が影響しているのではないか。もっと親も一緒に考えていかなければならないのではないか。そういった部分から、家庭教育といったものをもう少し考えて支援していけるとよいと。いろんな取組をしても、親御さんの参加率や意識が低いので、そういった取組をどう周知していくか。また、英語教育を今後どうしていくか。例えばALTの活用方法はもう少し考えていくべきではないか、また、ラーケーションで欠席となった時に子どもたちの学習保障ということで、特にオンラインの充実を図っていくことが、不登校の子どもたちの学習の場にも繋がっていくのであればそういったところで、全体に目を向けると、心を育てるということも大事になってくるのではないか、今の状況からどういったところに力を入れていったらよいかという話を中心にしてきて、時間になってしまったという現状です。

酒井学校教育課主幹

<Bグループ発表>

それではBグループになります。10年後、10年先を見据えた学校教育・社会教育のあり方とはというところで、Bグループの方では自分が筆記をさせていただいて、大きく地域と個人という観点で見た、どんな力をつけたらいいのかなという視点になったかなというふうに思いました。まず地域という面で見ると、中学生が地域の行事に参加すると、やはりそこで元気がもらえるなんていう話が出てきました。小さい頃からの関わりによって、地域に戻ってくるから、大人が正しい姿を子どもが見ることで、この地域が楽しいよい地域だというふうに思える、そんな話も出てきました。そうすると、その地域を好きになるための学校教育、社会教育を進めていくために、私たちが考えていかななくてはいけないことがあるのかなというふうに思いました。それから個々の面で見ると、やはり自己肯定感、自己有用感、こういった言葉が学校の中では出てくるけれども、こういった気持ちをもつことによって、やはり子どもが育っていくということが挙げられました。そういう子どもたちを増やすためには、一人一人をしっかり見ていくことが必要であると。それから、教員の世界ではこういった言葉はともによく出てくる言葉なんですけれども先生自体もこの言葉に対してもっと理解を深めるべきではないかというような意見も出ました。それから、いろんな困難を乗り越えられるしなやかな力をつけていく必要があるのではないか、ICTはもちろん進めているけれども、それに加えて実体験を合わせてうまく使い分けられる、そういった力も必要なんじゃないか。また、個人で言うと、時代的にかわいがられるじゃないですけれども、そういった風潮がある中でやはり我慢できる力というものは必要なのではないかと、そのような話題になりました。以上です。

多治見学校教育課主幹

<Cグループ発表>

まずは、10年先と言われても想像がつかないよねと。あ

さらに変化が予想される事態になると思うので、今ある制度が変わっていくことはもちろん想定しないとイケないし、実際には部活とかスポーツという面言えば、もう全国大会がなくなっていく風潮にもあるし、部活動の地域移行もあるしということで、これまで当たり前とっていた環境ではなくて、そういう中で育ってくる子たちが多くなると思えば、学校教育もそれに備えて変わっていかないとイケないということがまず挙げられるだろうと。ただ、その中でも基礎としてはやはり変わらない部分もあると。それはやはり楽しいと子どもたちが思えないと、なかなかそのあとの繋がり、広がりという部分では弱くなってしまふなど。だからベースとして、学校教育は楽しいとか、そういった思いをもたせられるような基礎づくりは絶対にやっていかないとイケない。それは、遊び体験をしたりとか、実体験を重ねたりすることで感じさせることができるのではないかとこの話をしています。また、さきほどの時代の変化に対応していくということ言えば、対応力や柔軟性、それから、自分で考えて判断するような判断力や思考力を備えていかないとイケないのではないかと。昔は先生たちが主導で、このルールに乗れば成功できるという感じで導いていた教育だったけれども、これからは、子どもたちが自分でそのゴールに向かってたどり着くために方法を考えて、探究していく力をつけていかなければならないという話をしています。社会教育の方にも目を向けますと、みんなが学べる環境を作っていかなければならないという意見が出ました。前半、意見が出ていたけれども、若い方も学ぶ環境が必要ではないか。なぜ若い方も学んで欲しいかという、実は保護者も学ぶ力が必要ではないかと。保護者にも学ぶ力がついていく、そういった家庭が増えれば、きっとその子どもたちにも伝わっていくということもあるので、やはりみんなが学べるような環境づくりを市にお願いしたいというような話になりました。

大村委員長

ありがとうございました。

ちょうど今日終了予定時間になってしまいましたが、私は一言だけ。10年後ということを考えると、やはり地域社会のあり方であるとかあるいは技術革新であるとか、どんどん変わっていく、変化していくだろうというふうには思います。ですからその都度といいますかね。家庭、学校、地域での課題に向き合って、それを解決していく、そういった力が学校の教職員にも必要だし、そして市民、住民にも必要なのだろうというふうには思います。そうした大人の力がなければ、そういった子どもを育てることは難しいのだろうと思います。そのためにその前提問題として、今、少子化の議論がありますけれども、一番何が足を引っ張っているか、その流れを変えられないのかっていうと、男性の働き方だという議論が起こっていますよね。男性が長時間労働をそのままにしている限り、その家庭の中で、2人目3人目を育てようというふうにはならないと。ワークライフバランスという言葉もあります。仕事をちゃんとして、そして家庭づくりもちゃんとやって、さらに、地域社会、社会でも市民としての役割を果たし

	<p>ていくということが出来るためには、やはり労働時間を減らしていくことは大前提で、それがなければ、なかなか家庭づくり、地域づくりに向かわない、女性も男性と一緒に子どもを育てようというふうには思えないということがあるんだろうと思います。ただ、働き方の問題はそんなにすぐには変わらないと思います。一方では、その男性自身がそれを望まなければ、変わらないっていう面もあるだろうと思います。だからそういった意味では、働くこと、家庭をつくること、そして社会をつくること、貢献すること、そういったことが自分にとって大切だという市民意識をもっている住民をみよしの町の中で増やしていかないといけないのかなという気がします。そういう市民に育つためには、住民を育てるためにはどんな社会教育が必要であり、そういったことが学校教育を支えていくということも併せてですね、今後議論していただければというふうに思います。</p> <p>それではまだ皆さんのグループでのお話ぶりを伺っていると、もっともっと発言されたいことがあったかと思います。そういったことは事務局の方にお寄せいただいて、次回以降、アンケートをとったり、計画の柱を作ったりという作業に入りますので、ぜひ皆さんのご意見を事務局にお伝えいただきたいと思います。それでは進行を事務局にお返しいたします。</p>
<p>鈴木教育部副参事 兼学校教育課主幹</p>	<p>ありがとうございました。今後の予定等について、事務局から説明させていただきます。</p> <p>事務局説明 ・今後の日程</p> <p>以上をもちまして、第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会後、終了させていただきます。交通安全に気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。</p>